



### 考えてみませんか？ 子どもの貧困

かどの三条こども診療所師長  
山田美紀子

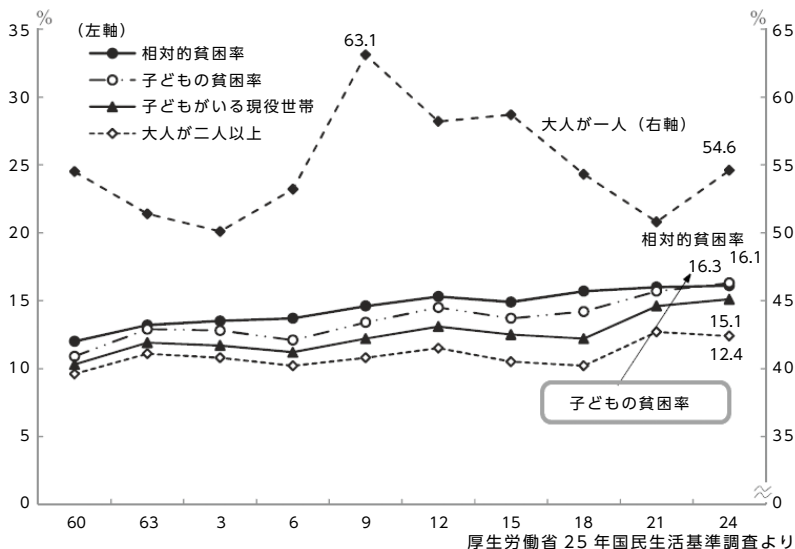
9月14、15日に第14回全日本民医連小児医療研究発表会が石川県金沢市で開催されました。東日本・西日本に分かれての開催と全日本での開催が交互に行われており、今年は全日本民医連で約190名の参加者でした。

今年のテーマは「子どもの貧困」子どもが大切にされる社会へ」でした。厚生労働省が今年7月にまとめた「国民生活基礎調査」によると、子どもの貧困率は16.3%で過去最悪を更新しました。中でも一人親世帯の経済的困窮が目立ち、低賃金・低学歴などによる「貧困の連鎖」が生み出されている現状があります。シンポジウムでは医療・行政・労働・メディア・歯科の各分野から貧困問題に取り組んでいる方々の報告がありました。分散会では、医師・看護師・助産師・保育士・保健師・事務・栄養士・セラピスト・MSW等小児の診療に携わる様々な職種の方が演題発表され、情報の共有や意見交換などが活発に行われました。当診療所からは「診察室にたどり着けない子ども達」生活困窮のため親が治療拒否をした喘息児の事例」と「貧困に直面する母子の暮らしを支えるために」3つの事例に共通する世代間連鎖の実態」の2演題を発表しました。

二日間で、一番印象に残ったのが、朝日新聞記者の中塚久美子さんの報告で、「家庭の所得によ

る学力・健康・意欲の格差があり、進路選択の際の障害になっている。希望の喪失・夢を持たないことで高校中退や定時制高校志願者が急増し、意欲の低さが無職・離職へ繋がっている」とありました。不利の蓄積が貧困へと繋がりが、貧困の連鎖となっている。この連鎖を断ち切るために、法律を足がかりに行政へ働きかけ、教育・医療・福祉との情報共有のルール作りをし、連携することが早急に望まれます。子どもたちが同じスタートラインに立てるような社会にしていきたいと思

貧困率の年次推移



### 友の会 活動家紹介

福知山健康友の会 事務局長  
中路隆美さん



2008年5月に3年間も不在となっていた友の会の事務局長を受けて頂きました。すでに1千名を超える会員をかかえておりました。

中路さんは物静かで、まっすぐで、細かい点まで気がつく、まさに設計図のような方で、友の会の要として、誰もが信頼を寄せています。また、NPO法人福知山健康友の会福祉サービスでは理事として、送迎ボランティアも受けられて忙しい毎日を送っておられます。京都保健会の社員としても院所との架け橋となつて頂いております。

友の会員の要求は多岐にわたっており、年一回の市長との懇談会を始め、他団体との調整も少なくありません。まさに毎日が友の会の活動で過ぎていくと言っても過言では無いと思います。

さぞかしストレスがたまっているのだろうと気にはなりますが、趣味などは特に無いようで、強いて言うなら静かに音楽を聴かれています。とにかく何事も一人で背負うことなく、任務を分かち合い、健康に留意して活躍していただきたいです。

(福知山健康友の会 事務局次長 中嶋サヨ子)